

# 知事記者会見の概要

日 時：令和7年6月11日(水) 10:00～10:27

場 所：502会議室

出席記者：12名、テレビカメラ5台

## 1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。  
その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

## 2 質疑応答の項目

### 発表事項

- (1) 「やまがたつながり支えあいネットワーク」設立キックオフイベントの開催について

### 代表質問

- (1) 副知事2人制の導入について

### フリー質問

- (1) 代表質問に関連して
- (2) 第27回参議院議員通常選挙について
- (3) さくらんぼの生育状況について
- (4) 災害に強い県づくりに向けた有識者会議について

<幹事社：読売・日経・YTS>

## ☆報告事項

### 知事

皆さん、おはようございます。先週の金曜日から暑い日が続いておりますが、来週も 30℃ 前後の気温が続くことが予想されております。

県民の皆様には、こまめな水分の補給や外出の際に日傘や帽子などで日射しを遮る、そしてまた室内では、エアコンを適切に使用するなど、くれぐれも熱中症にならないようにご注意をお願いいたします。

次に義援金です。令和 6 年 7 月 25 日からの大雨により、被災された方々を支援するために受付をしておりました令和 6 年 7 月山形県大雨災害義援金について、全国の皆様から多くの温かいお心遣いをいただき、総額が 3 億 9,009 万 3,500 円となりました。

改めて、全国の皆様からの温かいお心遣いに深く感謝申し上げます。

なお、寄せられた義援金のうち、2 億 8,953 万円は、第一次配分・第二次配分として、既に被災された方々に届けられております。残りの 1 億 56 万 3,500 円については、最終配分として、6 月中旬に被災市町村に送金し、その後、市町村から被災された方々へ届けられる予定であります。

さて、6 月はさくらんぼのシーズンであります。「やまがた紅王」がいよいよ色づいてきました。

昨日の紅王の成長の様子です。(補足：ここで知事が「やまがた紅王」の生育状況を写した写真フリップを掲げる。) 500 円玉より大きくなっているのがお分かりになるかと思います。

「やまがた紅王」は、6 月 20 日頃から収穫が本格化すると聞いております。皆さん、楽しみにお待ちください。

県内のさくらんぼは、6 月 6 日から好天が続いたことにより、生育が早まって、「佐藤錦」の収穫時期は、作柄発表時に予想したよりも 2 日程早い 6 月 15 日～21 日頃になる見込みです。

これから気温の高い日が続きますので、生産者の皆様には、熱中症対策を十分に行い、農作業事故にもご注意をいただきながら、1 粒でも多く、さくらんぼを消費者の皆様にお届けくださるようお願いいたします。

## ☆発表事項

### 知事

それから、私から発表が 1 点ございます。

お手元に資料を配布しておりますが、オール山形で社会のあらゆる分野で、孤独・孤立対策の推進を図っていくため、令和 7 年 4 月に設立した官民連携プラットフォーム「やまがた支えあいネットワーク」を広く県民に周知するとともに、関係団体の連携強化に向けて、キッ

クオフイベントを6月30日に、山形テルサで開催いたします。

キックオフイベントでは、孤独・孤立対策に取り組む関係団体による基調講演や、「孤独・孤立対策 今、わたしに、あなたにできること」と題して、有識者や地域での実践者によるトークセッションを行います。

孤独・孤立は、人生のあらゆる場面で誰にでも起こり得るものであります。県民の皆様お一人おひとりが、今できることを考えていただき、一緒に取り組むことが大切でありますので、多くの皆様にご参加いただきますよう、キックオフイベント開催の周知について、ご協力をお願いいたします。

私からは以上です。

#### ☆代表質問

##### 記者

幹事社の山形テレビです。よろしくお願いいたします。

まず、副知事2人制の導入について質問させていただきます。先日の議会運営委員会で、執行部のほうから副知事の2人制導入に向けて、条例の改正案を6月定例会に提出するという方針が示されました。吉村知事は、2009年（平成21年）に副知事2人制の廃止を掲げて初当選して、その後、現在まで1人制を続けてこられたということで、やはり強い思いですか、こだわりがあったことかと思えます。そんな中で、このタイミングで副知事を2人にするという決断に至った経緯や、知事の思いをお聞かせください。

##### 知事

はい。では、お答えいたします。私は就任当初から、副知事を1人とする執行体制の下で、直面する様々な県政課題に対応してまいりました。

一方で、本県を取り巻く情勢は、人口減少の加速や自然災害の頻発・激甚化、また物価高騰の長期化などへの対応が求められるなど、行政ニーズがこれまで以上に複雑・高度化、多様化する中、部局横断的な県政課題も増加してきております。

また、政府や関係機関と連携して取り組む必要のある重要事業も数多くなってまいりました。

そして、他の都道府県を見ましても、多数の都道府県で、副知事を2人以上置いている状況となってまいりました。

本県以外の副知事の定数ですけれども、東北では、1人の県は0県です。東日本では、私が知事に就任した平成21年では、富山県、山梨県の2県ございましたが、富山県は令和3年度から、山梨県では令和6年度から2人となりました。1人の県は、令和6年度以降、本県以外0県となっております。つまり、東日本では、山形県のみとなっております。

社会情勢の変化に伴う様々な行政課題に的確に対応していくため、他県の状況等も踏まえ、副知事を2人体制とし、知事を補佐する体制を強化する必要があると考えていたところであ

ります。

そういうことで、6月定例会に「副知事定数条例」の改正を提案したいと考えているところでもあります。

☆フリー質問

記者

テレビユー山形、矢野でございます。2点よろしいでしょうか、お願いします。

まず今、代表質問でありました副知事2人制の件なんですけれども、知事を支援する県政クラブのほうからは2人制に対しては、長らく反対していた経緯もあったと思うんですけれども、その点についてはどうお考えでしょうか。

知事

そうですね、1回目の当選以来ですね、支えてきていただいておりますので、そういったいろいろな思いはあるかなというふうに思っております。

ただですね、やはり県政を前に進めていくためには、あれからもう10年以上経っておりまして、社会情勢がいろいろと変わってきましたし、また、県で取り組む重要事業というようなことも多くなってまいりました。

ということで、ご理解をいただければなというふうに思っております。

記者

今後、話したりとか、そういう場を設けたりする予定とかはございますか。

知事

そうですね、随時、いろいろ思いというものを、皆さんに機会を見て、お伝えできればというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。2点目、すいません、短くお願いします。

参院選について、いよいよ期日が迫ってまいりました。知事がどの候補を支援するか、これまでもその動向は注目されていたと思います。いよいよ公示予定日まで3週間を切るようなタイミングとなりました。改めて、現時点でのお考え、どの候補を支援しようとお考えか、お答えいただくことは可能でしょうか。

知事

はい、そうですね、だんだんと近づいてきたなとは思っておりますけれども、ただ、明日から6月定例議会が始まります。そこに副知事2人制の提案をする予定でありますし、もう

本当にいろいろな課題が山積しておりますので、まずは目の前の議会对応をしっかり行ってまいりたいというふうに今、考えておまして、現時点で、まだ具体的なことは考えていないところです。

記者

NHK、永田です。まず、冒頭にあったさくらんぼからお伺いします。

さくらんぼ、昨日ですかね、発表が出て、高温がこれからも続くということで、他の懸念点だったり、農家さんへの呼びかけがあれば教えてください。去年も「うるみ」とかで大変だったと思うので、それも踏まえて教えてください。

知事

はい。冒頭ですね、気温が高いということで、県民の皆さんに熱中症対策をお願いしましたけれども、やはりさくらんぼも同じでありまして、高い気温が続くと急速に成熟が早くなることが予想されます。また、気温が高温になるということはずいぶん、「うるみ」が出るというようなことも大変心配されるところです。

例年よりも2日ほど早いと現時点でなっておりますけれども、来週あたりはもっと加速するかもしれませんので、まず、1粒でも多くですね、消費者の皆さん、待っていらっしゃいますので、市場に出回るようにしていただきたいなと思っておりますし、その高温対策を担当のほうで、農林部のほうで呼びかけていると聞いております。お忙しい中でしょうけれども、生産者の皆さまにはそういった対応もしていただきながら、それから、「もぎ残し」というのも、去年たくさん発生したと聞いております。1年かけてようやく実るさくらんぼでありますので、もぎ残しが無いようにですね、たくさんの方のいろいろなお手伝い、サポートなどもお願いをしながら、皆がこう、サポートする人、多くなってほしいですね。

そういうことで、できるだけ多くさくらんぼを市場に出回るようにしていただきたいなというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。

昨日、行われていた災害対応の有識者会議（補足：令和7年6月10日開催「災害に強い県づくりに向けた有識者会議」第1回会議のこと。）の件なんですが、人口減少も踏まえて、今後、県としてどのような政策を展開していきたいのか、まだ有識者の会議の中で意見が述べられただけだと思いますけれども、出水期の前なので呼びかけも含めてお願いします。

知事

はい。防災・減災を強力に行っていくための有識者会議ですね。いよいよ始まりました。近年、本当に激甚化・頻発化する災害に対して、どのように備えを行っていくのかというこ

とがやはり主力、主眼になってくるのかなと思っておりますけど、昨日は、まずは過去の災害の現状と言いますか、その共有ということだったというふうに受け止めております。

2回3回と内容がですね、テーマが変わっていきますので、より具体的なことについて多様性のある有識者の皆様から本当にいろいろなご意見を伺うことができるということを期待しております。

やはり、本当に多様な委員で良かったというようなご意見もありましたし、外国人の方も、入れてもらって良かったという声もありました。やはり、県民の皆様、そして、外国人の皆様もまた、本当にいろいろな団体の皆様もですね、災害に対してどういう備えをしていくべきか、そういったことをしっかりと議論をしていただき、そこからそれを踏まえて県と市町村、行政はどういうことを準備していくべきか、また、県民の皆さんにはこういうことをお願いしていく、というふうに自助・共助・公助というような視点からですね、しっかりと備えを万全にできるような体制にしていきたいなというふうに思っているところです。

記者

この時点でいったん立ち返るとするのは、やっぱり人口減少のというところもあるんでしょうか。

知事

そもそもやはり、1年おきにもう大災害が起きておりますので、ここでしっかりとこう、防災・減災、災害に強い県づくりをしなければというふうに思ったのが発端でした。

最上川というような大きな川を持つ県としてですね、あと土砂崩れ、山もたくさんあります。土砂崩れというような心配もあるわけでありますので、未来に向けて、人口減少ももちろんありますけれども、それもその中に含まれますが、最近災害が激甚化してきたということに対しての備えですね。そこをやはり、しっかり態勢・環境づくりといったことを行っていかなければいけないという認識のもとで、この会議を始めてもらったところです。

記者

読売新聞の仲條です。よろしくお願ひいたします。

論点が戻ってしまうんですけれども、副知事2人制のことでですね。2人目の副知事には吉村知事としてはどのような人材像を求めていらっしゃるのでしょうか。例えば、こんな専門性をお持ちですか、とか、2人いらっしゃるということは役割分担も必要になってくるのではないかなと思うんですけれども、そのあたりについてはどのような構想をお持ちなんのでしょうか。

知事

そうですね、まずは条例改正というようなことで、議会でしっかりと議論をしていただき、

またそこをお認めいただくということが一番大事かと思っておりますので、現時点でその先のことまでは、ちょっとコメントを差し控えさせていただきたいというふうに思っております。

記者

河北新報の八木と申します。よろしく申し上げます。

今の読売新聞さんの質問に関連する形にはなるかとは思うんですけども、そうすると今回、先ほど知事も議会の話をおっしゃっていたかと思うんですけども、今回はこの条例の改正案、これを議論してもらおうというところで、その先の人事案みたいなのは、この6月の議会では何か出てくるのか出てこないのかというところはどうかという質問だったんですけども、いかがでしょうか。

知事

そうですね、やはりまずお認めいただくというのがまず大事な、大事な点でありますので、そこをしっかりと議論していただき、そしてそれから進めたい。そういうふうにしないと議会軽視になるかと思っておりますので、早くとは思いますが、まず条例改正で賛同をいただけるということを目指したいというふうに思っております。

記者

山形新聞の稲村です。参議院議員選挙の知事の対応についてお聞きできればと思います。

先ほど、今は具体的なことは考えていないということでしたけれども、一部と言いますか、陣営のほうには一部為書き等々を贈られているかと思えます。必勝のメッセージを寄せられたりですね。そのあたりの知事の思いとしてはどういう意味で贈っていらっしゃるのかというのを聞ければと思います。

知事

大変難しいですね。ずっと応援してきてくださった方々もいらっしゃいますし、私の5期目の時にはほとんどオール山形というようなことで、ほとんどの皆様から応援をしていただいたという経緯がございますので、どういうふうにしていくかというのはかなり難しいかなというふうに思っております。

私の後援会とも相談をしながらですね、いろいろ考えていくことになるのかなというふうに思っております。私の後援会も私を応援するというだけでは一致団結なんですけれども、他の選挙につきましては、わりあい自由というような、政党ではございませんのでそういう雰囲気がございますが、これまでの経緯も踏まえですね、後援会の皆様のご意見もお聞きしながら考えていくことになるのかなというふうに思っております。

記者

山形放送の熊坂と申します。

大変恐縮なんですが、私からも副知事2人制の件でご質問させていただきたいのですが、先ほど人事のことについては現時点ではコメントできないということでしたけれども、一部報道では、中央官庁からの人選を念頭に、というような報道もございますけれども、そのあたりの方向性というかそういった考えはどうかというところを知事のほうからお伺いできますでしょうか。

知事

いや、まったく現時点では条例改正ということに主眼を置いてしっかりと議会の皆様方に議論していただきたいと思っておりますので、その先のことは申し上げられないところであります。

記者

では、人選する時期の目途というのは今のところ、このぐらいまでには決めたいと、そういうのはあるのでしょうか。

知事

条例改正をお認めいただいてからということになると思います。

記者

さくらんぼテレビの柿崎と申します。よろしくお願ひします。

先ほど他社さんからの、新しい副知事への役割などについてはコメントを差し控えるということでしたけれども、今回、1人制から2人制に変えるに当たって、知事の中でもやはり必要性というのは感じていらっしゃると思います。

その中で、具体的な内容はともかくとして、知事の中で現状、新しく来る副知事の方に求める役割というのは、ビジョンは見えていらっしゃるのでしょうか。

知事

それは今までお答えしたとおりであります。現時点ではちょっと申し上げられないところです。やはり人事に直結することだと思いますので。

記者

具体的などころではなくて、知事の中のお気持ちとして「こういうことをお願いしたい」という部分があるのかどうかということですね。何をさせたいというのはもちろんコメントをしていただかなくても大丈夫なんですけども、今知事の中で、新しく来られる副知事の

方にどういう業務をしていただきたいというビジョンがあるのかどうかというところです。

知事

そうですね。その人に特化して何をしてもらいたいということではなくて、とにかくどんどん増えてきていますので、さまざまな課題、そして重要案件といったことが出てきていますので、2人の副知事でやはり分担してもらおうというようなことを考えています。

その中の何を、何をということではなく、分担してやっていただく、それしかないと言いますか、本当に多くなってきて体を壊しそうなくらい大変な状況になっていると私は見えていますので、そこはですね、しっかり、そういう体制になるということが見えてきた時点で考えなければいけないというふうに思っています。

記者

続けてなんですけれども、当初知事が当選された際は、経費削減ということで2人制から1人体制に変えられたかと思います。今回、2人制に戻すということで、コストという言い方が正しいのかあれなんですけれども、やはりかかる費用は上がることになると思います。そのことについてはどのようにお考えでしょうか。

知事

そうですね、当初はコストだけでなく、実際に私の家族にも県職員だった人がいたりして、2人制が前にあったわけで、どうだったのかというようなことも聞いておりました。「どちらを見て良いか分からない」と、部下としてはですね。そういったこともあるとかね、いろいろ聞いていて、総合的に考えて、コストだけで決めたのではないんです。

そういったことを考えて1人制ということにしたんですけれども、ただ、15年以上経つ中で、社会情勢も本当にいろいろ変わってきました。県の重要事業ということもですね、あの頃はトンネルだの滑走路延長だのもなかったわけです。私が言い出したわけでありまして、本当にいろいろ増えてきて、洋上風力も出てきましたし、さまざまな中でそれに対応していくにはやはり2人制のほうが望ましいというふうに考えたところであります。

だからそういうことをしっかりと的確に県政課題を行って、県政を前に進めていく、人口減少の中ですけれども、中だからこそ前に進めていかなきゃいけないという思いがあります。そういう時に1人のコストというよりはもう県政を前に進めていく、そのことがやはり持続可能で明るい山形県の未来を作っていく上で必要だというふうに私は判断をしたということです。